

平成 29 年度第 1 回知床世界自然遺産地域連絡会議

議事概要

平成 29 年 10 月 16 日 11:00 ～ 12:00
羅臼町 公民館

議事次第

1. 環境省、林野庁、北海道の実施事業報告・予定
2. 科学委員会からの報告
3. その他

●開会挨拶（北海道環境生活部生物多様性保全課自然公園担当課長）

本日はお忙しい中、平成29年度第1回の知床世界自然遺産地域連絡会議にお集まりいただきありがとうございます。

このたび、この連絡会議の会長を務めさせていただくことになりました北海道環境生活部自然公園担当課長の小林でございます。

本会議は、昨年度まで環境省が連絡窓口を担当しておりましたが、昨年、北海道で知床世界自然遺産条例を制定したことを契機として、北海道が窓口を担当させていただくこととなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

知床世界自然遺産地域の保全管理や普及啓発を効果的に推進していくためには、関係する国の機関を初めとして、斜里町、羅臼町、地元の関係団体、北海道などが一体となって取り組んでいく必要があると考えております。この地域連絡会議は、まさに関係機関などが一堂に会して情報共有や意見交換のできる非常に重要な場と考えているところです。

本日、関係機関などが実施している知床世界自然遺産の保全管理に関する事業や、科学委員会での検討状況について、最近の動向も含めて報告を予定しております。

短い時間となりますが、知床の自然をよりよい形で次の世代に引き継いでいくためには、地域の皆様からのご意見やご提言をいただきながら、ご理解とご協力のもとでさまざまな取組を推進していく必要があると考えております。ぜひ忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

●湊谷羅臼町長ご挨拶

皆さん、おはようございます。

本日は世界自然遺産地域連絡会議ということで、当町にお越しをいただきありがとうございます。また、日ごろより、世界自然遺産知床に関するさまざまな案件に対して皆さんがご尽力いただいていることに対しましても、斜里町、羅臼町を含めましてお礼を申し上げます。

世界遺産になってから、はや12年も経ってしまった感じですが、この間、私ども世界遺産を抱える自治体で協議会やネットワークをつくっております。その中で毎回、参加させていただきますと、この知床の取組については、全国の自治体から非常に高い評価をいただいております。このことは、まさに皆さんが、日ごろ、この地域のことを真剣に考えて議論をして、活動していただいていることの賜だと感じておりますので、この場をお借りして、改めてお礼を申し上げたいと思います。

この自然環境を含めて持続可能な地域としてこれからも進んでいけるよう皆さんのご尽力をお願いしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、大変ご苦労さまでございます。

議題 1. 環境省、林野庁、北海道の実施事業報告・予定

- 資料 1-1：平成 28 年シカ年度 エゾシカ捕獲対策事業結果
… 環境省、林野庁、北海道より説明。
- 資料 1-2：平成 29 年度 斜里町・羅臼町のヒグマ目撃・対応状況について
… 知床財団より説明。
- 資料 1-3：平成 29 年度 環境省・林野庁・北海道事業の予定
… 環境省、林野庁、北海道より説明。

ウトロ地域協議会（桜井）：資料 1-3 の今年度の主な施設整備の予定にある知床五湖地上歩道再整備計画に関して、地域としては新しい高架木道が設置された時から植生の保護や安全性の観点からできるだけ現在の地上遊歩道の整備を進めて欲しいという要望を出してきており、再整備が行われることになって地元では歓迎している。

現在進めている基本設計について、この改修に当たって何かに配慮して路線を変えた、形態を変えた、全体としての利用方法など、どのような方法で良くなっていくのか、地元としても興味を持っているので、現状での検討状況を教えて欲しい。

環境省（山本）：現在、知床五湖地上歩道は北海道が事業執行しているが、基本的には今あるものをそのまま環境省が引き取るものの、木道の傷みやぬかるみの問題があるので、環境省でスムーズに事業執行ができるよう設計を行っているところ。また、現在、小ループは一方通行でなく対面の箇所があるので、それを解消するための最小限のルート変更について、植生に配慮しながら、ガイド協会にも見てもらいながら設計を進めている。

ウトロ地域協議会（桜井）：今まで知床五湖の利用については、利用調整地区にしても高架木道にしても地域とのコンセンサスをキャッチボールしながら築いてきた経過がある。地域ではどういったコンセプトで改修していくのか興味を持っており、我々は地域の代表として常に地元フィードバックしているので、もう少し分かりやすい形ができてきた時には地元にも伝えられるような形でやっていただきたい。

もう一点、知床ではないが、今まで工事による外来種の侵入が起きており、知床五湖ではそういうことが無いよう期待しているので、そのための対策、検討について伺いたい。

環境省（山本）：環境省では工事の際には注意事項で必ず外来種の持ち込みを行わないよう業者に指導しており、知床五湖においてもしっかり注意、説明を行っていることになる。

ウトロ地域協議会（松本）：高架木道の設置の時には地元に対し時間をかけて丁寧な説明をしていたが、今回の地上遊歩道は今年 3 月の知床五湖のあり方協議会で概略の説明を受けて課題が出たが、その課題に対する対応は、今後あり方協議会で示していただけるのか。

環境省（山本）：そうした会議で随時、情報提供はしていく予定。再整備については、今ある形をできる限り引き継ぐことを前提にし、悪くなった所のみ直していく考え。

議題 2. 科学委員会からの報告

- 資料 2 : 平成 29 年度第 1 回知床世界自然遺産地域科学委員会報告
- 資料 2-1 : 議事 (1) 各ワーキンググループ等の検討状況等について
… 環境省、林野庁及び北海道より説明。
- 資料 2-2 : 議事 (2) 長期モニタリングについて
… 環境省より説明。
- 資料 2-3 : 議事 (3) 第 4 1 回世界遺産委員会決議の対応について
… 環境省より説明。
- 資料 2-4 : その他
(平成 29 年度 科学委員会・ワーキング等の今後の予定)
… 環境省より説明。

ウトロ地域協議会 (松本) : 河川工作物WGに関して、ルシャ川のダムの実証実験についての内容と漁業者との話し合いについて説明をお願いします。

林野庁 (服部) : ルシャ川のダムについては、北海道庁で 40 メートルをカットした場合のシミュレーションによる状況確認をして、概ねその改良方針が良いということで検討が進められているが、来年度以降に地元の皆さんに説明をしながら改良方針を示していく予定。

河床路については現在、測量をしながら設計中で、第 2 回目のアドバイザー会議で示し、来年度以降に実証実験のための施工をしていく予定。細かい資料については会議の都度、知床データセンターにアップしているのでご覧いただければ幸い。

ルシャの漁業者や漁協には機会がある毎に説明しており、これからもそのようにしていきたい。

知床財団 (村田) : 海域WGに関して、指標種にシャチが追加される理由と、指標種が変更される条件について、説明をお願いします。

北海道 (小林) : スルメイカについてはこれから増えていくという予想により、シャチについては観光船によりデータが得られることと捕食上位者であることから、モニタリングに加えることを検討。海域管理計画はモニタリング項目の追加も含めて今後、パブリックコメントの実施を経て決めていく。

指標種の考え方は、海域管理計画では、指標種で何か問題があってもその対策をしていくというつもりではなく、モニタリングの継続により仮に変化の予兆を事前に捉えて対策を取ることができれば、という趣旨である。

知床財団 (村田) : 地球温暖化と特定地域の事情ということで理解したが、スケソウダラの変化もモニタリングをしながら考えていくということか。

北海道 (小林) : 漁獲が少なくなっていく種が仮にあったとしても継続してモニタリングをしていく。

温暖化対策については科学委員会等で検討しても、地域で対策を取り効果を得るということは難しいが、地域の生態系が安定していれば温暖化に耐えられるので、それをきちんとモニタリングしていくことが重要と考えている。

議題3. その他

■資料3：知床世界自然遺産 地域連絡会議 設置要綱

… 北海道より説明。

質問・意見なし

■資料：国立公園の統一マークの作成について

… 環境省より説明。

質問・意見なし

■資料：「知床」ナンバーについて

… 羅臼町より説明。

質問・意見なし

(その他)

羅臼町長：羅臼町を含むこの地域は、日露の共同経済活動を協議している隣接地域である。国が優先的に取り組む候補として合意した5項目の事業のうちのエネルギー分野について最初に調査を始めるのが風力発電だが、これについてはかつて地域で様々な議論があった。バードストライクの問題などである。

羅臼から一番近い国後島に大きな風車が何基あるのかもわからず、今後国が協議・調査すると聞いているが、自治体として、その内容は全く把握してない。

世界遺産を抱える地域として、いずれこの問題について方向性を出さなければならなくなる。その際には皆さんの意見を聞いて自治体としての判断材料としたい。その場として、地域連絡会議か科学委員会か、日露隣接地域生態系保全協力プログラム推進委員会もあり、どの場が適切なのか、世界遺産の関係者の皆さんで検討をお願いしたい。

環境省（安田）：日露共同経済活動について、環境省は現在、情報を得られていない。風力発電には問題意識を持っており、外務省に情報提供等を働きかけている状況。地域の声というのは大きな要素であり、議論の場は検討していきたい。

北海道（小林）：どのような検討の場が良いのか、環境省とも調整させていただきたい。

(全体を通じて)

ウトロ地域協議会（松本）：知床五湖の高架木道は10年経ちだんだん老朽化してくるので、整備を逐次検討していただきたい。

環境省（山本）：来年度から、施設長期化の計画を立てるべく検討している。

以上